丹波新聞に 掲載されました

は、納棺体験も実施(提供)成徳寺の河合住職の説法を聞く学生 納棺体験も実施

(写真上)

キクヤの「ネムールの森 かいばら」で

生の死生観を醸成するため、医療現場だけでなく、市内の寺院や葬儀社など学校以外の の特色ある看護基礎教育を表彰する「私の学校自慢」で最高の優秀賞に輝いた。若い学 師を育成するため、丹波市立看護専門学校が実施している実習が、日本看護学校協議会

施設に出向いて実習し、「生」や「死」に対する幅広い見識を持つことなどを目的にし

市立看護専門学校

寺院や葬儀社で死生観育む

ており、他の学校にはない取り組みが評価された。(田畑知也

同協議会に加盟する4 | 看護を学ぶ―死生観の醸 | のの、青年期の学生に という研究結果があるも み」。同校によると、死 の死に大きく関与される 成に向けての取り組とってその体験は乏し るケースがあるという。 り組みで、3週間でター く、死生観が観念的にな 実習は5年前からの取

募した。このほど、福岡 45校のうち、27校が応

受賞テーマは「終末期

|老人ホームのほか、成徳| 傾聴することや、他者の 緩和ケア病棟、特別養護 療)を学ぶ。一般病棟や ミナルケア(終末期医

方を考えるというもの し、死に対する向き合い 命の大切さを見つめ直 法を受ける。与えられた

社キクヤの「ネムールの かいばら」(同町田

職から、仏教の視点から ヤ」)で行っている。 同寺では、河合宗徹住 現「家族葬のキク

家族が心安らかに最期の き合い方を学ぶ。故人や えた人やその家族との向 は、納棺士から、死を迎

人の「死」と向き合い、死に直面した患者やその家族に寄り添った看護を行える看護

終末期看護学ぶ実習評

ネムールの森

会としている。 死を具体的に想像する機

同校は「実習を通じ、

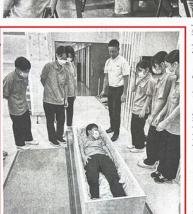
(右)と、兵庫労働局の内藤部長=氷上町石生で ユースエール企業の認定書を手にする菓子社長 | 学生は人生観や死生観を | 割だと感じ取っている ことも看護師の大きな役 苦痛をくみ取り、支える

切なことを学ぶととも ありのままを受け入れる に対するケアも学ぶ。 に、死別を経験した家族 ことなど、生きる上で大

「私の学校自慢

かを考える。また、希望 護師としてどうあるべき 合っている話を聞き、 時を過ごせるよう向き 者には納棺体験も行

一くための援助をすること 迎えることにつながって は、その人らしい最期を 患者が自分らしく生き抜 最愛の人を見送る家族の いると感じるとともに、



スエール企業認定

死生観をテーマにした説

氷上製作所 市内 4 社目 雇用管理など評価

艮な企業「ユースエール 位長)が、厚生労働省に 氷上町石生、菓子俊之 担している 氷上製作所 に積極的で雇用管理も優 る若年者の採用・育成 電子回路実装基板を製

4日、同社で認定書交付 間外労働時間が6時間 10日以上)、月の平均時 績が13・8日(認定基準 育児休業取得者が1人 有給休暇の平均取得実 | ち6割ほどが女性。小さ 急な子の体調不良による

対応している。省力化の 時間外労働を減らすなど ための設備投資を通し、

6)

「くりに努めたい」と述べ

をするなど細かい仕事 れるより良い雇用環境づ に、安心して働き続けら ずれも基準を上回った。 %(同75%以上)など、い 電子基板にハンダ付け

な子を持つ母親も多く、 従業員134人のう

(45) は、「認定を励み 式が行われた。菓子社長 | 員の育児取得率が100

) *** 0

記事抜粋